

## 令和6年度 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」

### 自己点検・自己評価結果

令和7年3月11日

名古屋女子大学自己点検・自己評価委員会

#### プログラムの履修・修得状況

全学共通科目として開講している「数学の世界」は、今年度わずか8名の履修者となった。授業時間帯が9・10限であり、他に3科目選択肢があることも影響している可能性があるため、今後は学生へのプログラム周知を重点的に実施していく予定である。

#### 学修成果

この授業の学修成果となる到達目標は、データ分析・活用の方法を身につけ、課題を解決できるようにすることである。よって、まずはデータサイエンスの基礎となる確率・統計の理解を深める必要がある。実際の授業では、データ分析の基礎となる確率と、記述統計・推測統計の知識を、自ら手を動かし実例の演習問題に取り組みながら学ぶことができた。また、データを取り扱う上での倫理と、データ駆動型社会における脅威についても学んだ。コンピュータ演習室における実習では、各学生が自ら設定した課題を基に、実際のデータを用いた探索的なデータ分析作業を行った。気象データ、経済データなど、データの取得も学生自ら行った。訪日外国人観光客数と日本からの海外旅行者数の年別データには相関があることを発見した学生もいた。学生は熱心に取り組み、PowerPointによりその成果をLMS上に発表した。

#### 学生アンケートを通じた学生の内容の理解度

全学的に実施している授業評価アンケートにおいて、「授業の内容はわかりやすいものだったか」「授業の到達目標を達成できたと思うか」の設問を設けて、学生の理解度を調査している。令和6年度の評価はどちらの設問も4点満点中3.71点と評価が高かった。

#### 学生アンケートの結果

質問	4	3	2	1
授業の内容はわかりやすいものでしたか	5	2	0	0
授業内容に興味や関心が持てましたか	6	1	0	0
教材は授業内容に照らして適切でしたか	6	1	0	0
授業を総合的に見た時の満足度	6	1	0	0
あなた(学生)は授業の到達目標を達成できたと思いますか	5	2	0	0

#### 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画

これからの時代に必要な知識であること、企業が求める能力であることなどを履修対象学年だけでなく、下級履修が可能な上級学年に向けても周知して、履修者数が増加するよう努める。